

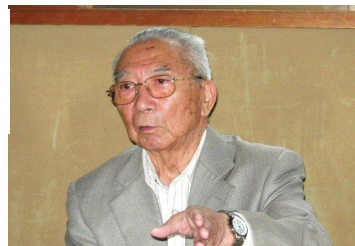
松波むかし語り ここに生き続けて その29

今回のお客様

松波公民館の建物を設計した

さくらだ へいきち
櫻田 平吉 さん 84歳 3丁目

“階段を広くとったのは、火事になっても
逃げ出せるようにと考えたんです！”



櫻田さんが松波公民館の建物を設計された方だということは知られていましたが、市の職員として、弥生小の最初の建物を建てる仕事を担当されたことは知りませんでした。「できたのは昭和28年ですね。あの土地は線路の脇の谷底のような土地で、木の苗木をつくっていた所を市が買い取って小学校にしたんです。当時は子どもの数が増えて、毎年2~3校の学校を新築しなければならずやりくりもたいへんでした。幸い千葉競輪の景気が良くて、その1年間の収益で24教室の学校が一つ建ったんです」。公営ギャンブルはどれも火の車の今では信じられない話です。

櫻田さんは昭和2年、今年の大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市の出身、農家の9人兄弟の末っ子として誕生しました。小学校5年生の時、兄弟を頼って群馬県太田市にある旧制中学の機械科を出、立川にあった陸軍航空技術研究所に就職しました。3年ののち予科練を受けて合格し、訓練後、小松航空隊に配属されそこで終戦を迎えました。戦後は「もう一度勉強したい」と意欲を燃やし、習志野にあった建設技術学院という短大を出て、昭和25年、千葉市役所に入り、以後、建築畑を一貫して歩き建築部長を最後に退職しました。

さて、町会の建物です。先代の建物は、当時の藤木会長の尽力により、現在の蘇我中学校の前の花嫁学校を取り壊すというのでそれを無償でもらい受け、その古材で建ったものでしたが、櫻田さんはそれと現在の建物の設計・監理を任されています。「私は現役の市職員でしたから、市長に許可を得て担当させてもらいました。住宅と違いさまざまな人が出入りする建物ですから、2階への階段も広くとって安全にも気を配りました」。火事の多かった当時の反映だといいます。

「どうも9という数字に縁があるようで、定年になってからは人権擁護委員や開発審査委員、それに町会の副会長もそれぞれ9年間務めました。町会ですか？ 私としてはなるべく小さく顔の見える規模で、我が家で会議を開けるくらいがいいと思うのですが、ぜいたくですか？」。



昭和31年 初代公民館地鎮祭
前列左端が櫻田さん



昭和59年 第二代公民館地鎮祭
前列右から4番目が櫻田さん